

# WRH プログラム 海外研究者招聘 募集要項

## —2024 年度-2025 年度枠—

### 1. 事業の目的・主旨

本学は様々な分野で世界最高水準の研究拠点（World Research Hub）として科学技術の飛躍的發展をけん引することを目指している。そのような世界最高水準の研究拠点構築のためには、研究者の強力な国際連携—国際研究者ネットワークング—による人的交流が必須の要素である。WRH プログラムは、世界トップの研究者を招聘するための経費や事務手続きの支援により、個々の研究者交流をベースとした国際連携の始まりとその深化・拡大を進めること、また世界トップの研究者との交流の機会を本学の若手研究者・学生に提供することを目的とした第4期中期目標・中期計画期間に行う事業である。

### 2. 募集プログラム

資料・様式ダウンロード用：

<https://tokyotech.app.box.com/folder/275345653338>

#### 【タイプ0】（連携の発端）

概要：世界トップの研究者と新たな連携を築くための準備をするために、「この人と研究の話をしてみたい」という研究者を、まずは招聘してみても連携の発端を築く機会を提供するために、短期間での招聘の実施を支援するもの。

支援期間：原則として2025年度中に1週間程度の滞在を1回限り

招聘の条件：これまでに共同研究実績の無い海外の研究者。

※この支援を受けた後、その実績をもとに今後、タイプIやIIの支援に応募することも可能。

#### 【タイプI】（研究始動・拡大型）

概要：世界トップの研究者を短期間ではあるが複数年・複数回招聘することを支援するプログ

ラム。(i) 本学の教員との新たな連携を築くこと、あるいは(ii) これまでの連携実績を基に、より深い・大きな研究プロジェクトへの拡張の準備を目的としたもの。

支援期間：原則として2会計年度以内（2025年度から最大2026年度（2027年2月）まで）。

招聘の条件：滞在は会計年度ごとに1回は必要とする。滞在期間は支援期間全体を通じて延べ1か月以上とし、予算状況により最大6か月まで認める。

#### 【タイプII】（長期滞在型）

概要：研究者の長期滞在を支援するプログラム。世界トップの研究者が、サバティカル等を利用し長期間滞在し、本学の研究・教育に貢献してもらうことで、本学の多くの若手研究者・学生に、世界トップの研究者との交流や超一流の研究手法にふれる機会を提供することを目指したもの。あるいは、分野において次世代の世界トップの研究者となりえる若手研究者を比較的長期に招聘し、本学での活躍の可能性を検討することを目的としたもの。

支援期間：滞在は1回限り。2か月以上12か月以下とし、年度を跨ぐ滞在も可。

招聘の条件：2027年2月までの滞在終了が必要

#### 【2024年度からの招聘開始について】

2024年度中に開始するタイプ0、タイプI、またはタイプIIでの招聘は、提案されたスケジュールが実施可能と判断されれば考慮される場合がある。ただし、応募前に必ずWRHプログラム事務室に相談すること。招聘期間や条件は上記の通りだが、開始年度に合わせて年限が調整される。タイプIで2024年度中に招聘を開始する場合の支援は2025年度までとする。

### 3. 申請要件

#### 1) 実施の対象

本支援の目的は、国際研究連携構築の開始の機会、あるいはその深化・拡大を加速させるためのもの、もしくは長期の招聘や若手研究者がホストとなる招聘など、通常の研究費では難しい招聘を支援するためのものである。したがって、通常の研究費で実施可能な国際共同研究実施のための招聘の支援は対象外とする。

## 2) 申請者（受入教員）の要件

- ① 申請者は、東京工業大学の教員であって、申請する支援期間内での申請者自身の雇用が確保されていること。（助教や特任教員も可能とする。ただし、その場合には居室等の条件を保証する意味で、講師以上の常勤教員と連名とすること。連名教員に関しては、以下③の件数制限には含めない。）
- ② 申請者は、招聘研究者の研究費、居室等の十分な研究環境のほか、受入教員としての責務を果たせること。
- ③ 申請者 1 人につき、申請 1 件（招聘研究者 1 人）までとする。なお、複数の受入教員によって複数名の招聘を申請する「グループ申請」も可能とする。ただし、その場合にも、招聘研究者ごとに受入教員を決めて申請すること。
- ④ 申請する際には、必ず事前に所属部局での了解を得ること。

## 3) 招聘研究者の要件

- ① 原則として申請時・支援期間内に海外の研究機関に職員として勤務する者（日本国籍の有無は問わない）であること。ただし、学位取得前後の者はこの限りではない。
- ② タイプ I、II の場合には、本学での身分は特任教員 specially appointed professor/associate professor/assistant professor として雇用するか、もしくは特任教員 visiting professor/associate professor/assistant professor として業務委託するかを選択する。タイプ 0 の場合は本学での身分は特に定めない。
- ③ すでに本学に所属している者の在籍延長を目的とした招聘は原則として認めない。

## 4) 招聘計画の要件

- ① 過去にタイプ 0 で招聘した研究者について、タイプ I またはタイプ II での招聘を希望する場合は、以前の招聘と今回の招聘計画との関連性を説明すること。

※過去にタイプ I またはタイプ II で支援された研究者の招聘は原則として認めない。

- ② グループでの招聘計画の場合には、招聘計画説明書でグループの構成や各招聘研究者の関連・役割等を説明すること。（複数の研究者に対して同じ招聘計画説明書とすることも可能。）
- ③ 招聘期間中の出張を予定している場合は、使用経費を含めた詳細を記入すること。
- ④ 招聘の最終年度については、原則として 2 月中を目途に本国に帰国する計画とすること。

## 4. 支援等の取扱い

「WRH プログラム海外招聘研究者に関する取扱い」のとおり。

## 5. 応募手続き

### 1) 期日：2024 年 9 月 30 日 (月) 8:30 (JST) まで

※招聘計画の都合上、期日前申請・迅速審査を希望する場合には問い合わせること。

**※特任教員・特定教員の教員選考等諸手続きに要する 2 カ月、その他査証の取得にかかる時間を考慮すること。特に特任教員として雇用する場合は、在留資格認定証明書の発行を受けるため、採択決定後 5 か月程度要する**ことを想定して招聘計画を立てること。

### 2) 申請方法

期日までに必要書類を zip 形式で圧縮して以下の box まで提出した後、Slack チャンネル「#t2-irfi-wrh 招聘プログラム」より、ワークフロー「申請手続き / Application」で申請を通知すること。

提出 Box：

<https://tokyotech.app.box.com/f/6c762c22f29b4b21a006f522255a0bc6>

### 3) 提出書類

- ① 研究者招聘申請書・招聘研究者実績調査書（指定様式、招聘者毎；[application-achievements.xls](#)）  
※作成には SciVal の使用が必要になりますので配布する手引きを確認すること。
- ② 招聘計画説明書（任意様式、pdf 形式、A4 で 2 ページ以下；[plan.pdf](#)）

※タイプ0での招聘の場合には、なぜ招聘したいかの理由（A4で1ページ程度）で構わない。

- ③ 招聘研究者の CV（任意様式、pdf 形式、招聘者毎；[cv.pdf](#)）
- ④ 招聘を承諾した旨が確認できる書類（メールの写し等、pdf 形式、招聘者毎；[agree.pdf](#)）

※提出するファイルについては、以下のとおりに名称を付けること。

- ・ Zip のファイル名は、申請者名がわかるように、apply\_申請者名.zip とすること。
- ・ 提出書類①～④は、**青字**で示した名称を用いること。

## 6. 審査及び採択後の手続き

- 1) WRH プログラム運営委員会において、下記の分類および観点にて審査し、総合的に判断します。

### <審査の分類>

- ・ 研究領域（申請者の指定による）
  - a. 数理科学系（物理、情報、経営等も含む）研究領域
  - b. 電気電子工学系研究領域
  - c. 機械・制御・ロボット工学系領域
  - d. 化学・材料系（エネルギー科学等も含む）研究領域
  - e. 生命科学系研究領域
  - f. 社会インフラおよび社会課題解決系研究領域ならびに人文社会系研究領域

### <審査の観点>

- ・ 招聘研究者の研究力 and/or 本学との連携実績※（成果発表および共同研究の実績）  
※連携実績はタイプ I の (ii) の招聘目的の場合に用いる。その他では特に使用しない。
- ・ 招聘の妥当性・必要性・波及効果：  
複数の本学教員との共同研究への発展や組織的な国際連携の可能性、（国際）共同研究プロジェクト等の研究プロジェクトへの応募における重要性、教員採用計画とその中での招聘の必要性など。

- 2) 審査の過程で WRH プログラム運営委員会委員長から申請者に申請内容について問い合わせる場合がある。

- 3) 申請採否は 10 月中をめどに申請者あてに連絡する。

- 4) 採択にあたっては計画の見直し等の条件を付す場合がある。

## 7. 留意事項

- 1) 本事業は WRH プログラムによる国際連携構築を目的としており、教育を主な目的とする活動は支援対象外です。

- 2) 科研費等の競争的資金の研究推進のための招聘については、当該資金で招聘すべきことから支援対象外です。

- 3) 安全保障貿易管理の対象に該当する申請が採択された場合、確認手続きの完了が招聘の条件となります。

[https://www.titech.ac.jp/staff/world/export\\_control/examination\\_researcher.html](https://www.titech.ac.jp/staff/world/export_control/examination_researcher.html)

- 4) 特定教員で査証免除対象国の国籍、許可された期間以内の日本滞在の場合は、査証不要です。（参考）外務省「ビザ免除国・地域（短期滞在）」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/visa/tanki/novisa.html>

## 8. 問い合わせ

国際先駆研究機構 WRH プログラム事務室  
東工大 Slack「[#t2-irfi-wrh 招聘プログラム](#)」

（チャンネル直接に投稿、または「申請に関する問合せ / Inquiry」のワークフローをご利用ください。）